

H27 新興国学生大使派遣プログラム報告書

人文学部人間文化学科2年 菊地春香

派遣先大学：ベトナム国家農業大学

派遣期間：8月21日～9月4日（15日間）

○日本語教室での指導内容

日本語教室は、ビギナークラスとアドバンスクラスに分かれていて、ビギナーでは平仮名やカタカナ、そして英語を通して日本語での自己紹介のやり方や簡単な文法を教えた。ベトナム人にとって「つ」の発音は難しいようでどうやったら「つ」と発音できるかを教えることが難しかった。ビギナーの授業は毎回参加する人が違うことが多く、レベルに合わせてグループ分けをし、ベトナムの学生5～6人に対して日本人1人が教える形式だった。また、アドバンスクラスの学生何人かが先生として一緒に授業に参加してくれた。何を教えたら良いのかを聞いたり、日・英どちらの言語でも上手く伝えられない時はアドバンスクラスの学生にベトナム語に翻訳してもらったりしながら授業を進めた。そして、アドバンスクラスでは現地で使われているテキストに沿いながら、文法の使い方や会話の練習を時に英語も交えながら行った。



日本語クラスのみんと！

○日本語教室以外での現地での交流活動

ベトナムの学生は初めて会ったその日から本当に親切で面白い人たちばかりであった。言葉の壁を感じないくらい毎日現地の学生と笑って過ごし、夜寝るとき以外はいつも一緒

にいてくれた。三食の食事も毎回ベトナムの学生が食べる場所に連れて行ってくれた。紙風船で遊んだり歌を歌ったりと、授業外でもたくさん交流し仲を深めることが出来た。また、休日は毎回観光地に連れて行ってくれ、ホーチミン朝や水上劇を見たり、ショッピングをしたりととても楽しく過ごしていた。実際、ベトナムでは英語がほとんど使われていないため、ベトナム語が全く分からない私達だけでは何もすることが出来なかったと思うので、現地の学生の存在はとても心強く、本当に助かった。このようなことに対してお礼を言った時、「ありがとうじゃないよ！」と現地の学生に言われたことがあった。理由を尋ねると、「皆はベトナムのことを何も知らないでしょ、だから私たちがこうするのは当たり前のことだ」という返事が返ってきた。実際に彼らは些細なことまで私たちのことを気遣ってくれ、その気遣いがとても嬉しく感じた。また、日常生活でも日本語を使おうとしていて、ベトナム人同士の会話でも日本語が分かる人同士は日本語で会話をしていてすごいなと感じた。また、分からない単語があると、その度に辞書で調べる姿には良い刺激を受けた。



海に連れて行ってくれた時の写真

○プログラムに参加した感想

最初は英語を話す機会を作りたいという思いからこのプログラムに参加した。実際ベトナムに行ってみると現地の学生は日本語がとても上手で、私が想像していたよりも英語を使う機会はなく少し残念だった。しかし、それ以上に現地の学生と一緒に過ごす毎日は楽しく、現地の学生のフレンドリーさに助けられて同じ期間にベトナムに行った日本人学生とも自然に仲良くなることが出来た。また、海外に出ることで日本のことを見つめる良い

機会になった。「キレイと美人の違いは何か」など日本にいる時には考えなかったことをたくさん考えた15日間だったと思う。そして、現地の学生が楽しそうに且ひたむきに日本語を勉強する姿をみて勉学に対する意識が高まった。今まではやらされている勉強であったが、ベトナムに行きたくさん学びたいことができ、「勉強したい」と強く思うようになった。このように意識を変えられたことは、とても大きな収穫になった。

○自分の目標の達成や努力した経緯

このプログラムに参加するにあたり私が立てていた目標は英語力の向上だったため、目標はあまり達成できなかつたなと感じる。しかし、日本以外で英語を話すことは初めての経験だったので、自分の英語で意思疎通できたことはとても嬉しく、国が違う人とコミュニケーションできる喜びを知ることが出来た。プログラム中に目標を達成することは難しかったが、このプログラムに参加したことで自分の中の意識を良い方向へ変えることができ、頑張ろうと思うエネルギーを蓄えることが出来た。この気持ちを今後も持ち続け、目標達成に向けて頑張っていきたい。

○今後の展望

このプログラムに参加し、日本語を勉強し始めて1年も経っていない学生が日常会話を日本語で出来るようになってきている姿を見て、自分の勉強に対する意識の甘さを痛感した。そして、日本語はいつも特に考えることなく使っているため説明が難しいと感じる部分もあった。これから第二言語としての日本語について勉強して教えられるようになること、そして自分が学びたい英語をきちんと習得できるようにするという2つの明確な目標が出来た。この2つをきちんと達成し、卒業するまでにもう1度ベトナムへ行き今回よりも良い授業を行いたい。そして早くみんなに会いたい。このプログラムに関わっていただいた全ての方々、本当にありがとうございました。

